【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立北川副小学校

1　前年度 評価結果の概要	・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止策の影響が大きく、全校児童が集まるような行事や地域の方々に協力していただく体験活動などが計画通りには実施できなかった。コミュニティスクールとしての活動も十分には実施できなかった。次年度は、子どもたちへの教育的効果が望める活動を十分な感染症対策を施しながら実施し、誰もが大切にされる学校を地域の協力を得ながら目指していきたい。 ・「教育のユニバーサルデザイン」については、本来の理論や目的が薄れて取り組みが形骸化してきていたため、校内研究に「算数科授業を中心とした、授業のユニバーサルデザイン」を位置づけ研修に取り組んだ。次年度は人権・同和教育についても研修し、人的環境のユニバーサルデザインに取り組み、誰もが大切にされる学校を目指していきたい。
2　学校教育目標	えがお　かがやく　子ども　を育てる　チーム北川副 ～誰もが大切にされる学校を目指して～
3　本年度の重点目標	①人権・同和教育の充実　／　自他を大切にする気持ちの育成 ②わかる授業の工夫　／　教育のUDの推進 ③トライ＆エラー＆チア　／　健康な心や体づくりの推進

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた教育のUDの視点を取り入れた授業の実践	○「授業を通して、『できた』『わかった』と感じる」と回答する児童80%以上	・昨年度までの「授業のUDの実践　算数科を通して」の経験を生かし、わかる授業を他教科にも広げる。 ・授業のUD（視覚化・焦点化・共有化）を促進する。	B	・他教科においてもアセスメントシートを用いた児童の実態分析を生かした授業を実践している。 ・授業のUD（視覚化・焦点化・共有化）の手立てについて全職員で共通理解し、実践を行っている。	A	・「授業を受けて『わかった』『できた』と感じることができている」児童が94%、「友だちと話し合ったり、教え合ったりしながら進んで学習している」児童が92%であった。	B	・子どもたちが、積極的に、計画的に行動し調べて発表している姿を見て素晴らしい。	（主）研究主任 （副）学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達に、にこにこ言葉をよく使っている」と回答する児童90%以上 ○「自分のよさがわかる」と回答する児童80%以上。	・特別の教科道徳・特別支援教育に関する校内研修等の実施。 ・人権・同和教育を校内研究に位置付けた重点実施（人的環境UDの推進）。	B	・特別の教科道徳及び特別支援教育に関する校内研修を設け、教師の実践力の強化を図っている。 ・児童の善行を賞賛する「ぽかぽかカード」を実践している。児童の言葉遣いがよくなりつつある。	A	・「いじわる言葉をつかわずに、にこにこ言葉を使っている」児童が92%、「自分はがんばっていることや自分にはいいところがある」児童が87%であった。	B	・子どもが下校中に転んでケガをした時に、友達が学校まで戻って先生に知らせてくれ、また、たくさんの友達がその場に残って心配してくれた。逆に、友達が転んだ時には助けに行ったこともあるようだ。	（道徳　主）道徳教育推進教師 （人・同　主）人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている」と回答する児童95%以上	・いじめの早期発見のために、毎月、児童へのいじめアンケートを行う。 ・いじめが見つかった場合は、担任一人に任せず、管理職も含むチームで対応する。	B	・アンケート実施後、教師と児童が一対一で話し合う「あのねタイム」を実施し、児童の思いを把握する活動を実施している。 ・アンケート等で覚知認知したいじめについて、っ組織的に対応していくことで、早期解決を図っている。	A	・「友だちと楽しく学校生活を送っている」児童が97%、「担任の先生は、あなたにしっかりと関わっている」と答える児童94%であった。「あのねタイム」等を実施することで、子どもの様子を的確に把握し、対応することができた。	A	・コロナが少し落ち着き、様々な学校行事や地域が関わる行事、取り組みができるようになり、子どもたちの笑顔も増えてきていると思う。	（主）生徒指導主任 （副）各学年主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 ◎「目標が達成できるように工夫して取り組んでいる」と回答した児童80%以上	・先生と児童が二人で話し合う「あのねタイム」を実施する。 ・学校応援団の方をゲストティーチャーに招いた活動を展開し、地域の人々のくらしや伝統、文化、職業等についての理解を深める活動を行う。 ・行事や学期ごとの目標設定や振返りの充実（キャリアパスポートの活用）を図る。	B	・前期については、「あのねタイム」はいじめアンケート後の実態把握として実施した。状況に応じて児童の夢や目標を取り扱っていく。 ・後期に地域人材を活用したキャリア教育を実施する。 ・適宜、キャリアパスポートを活用して、振り返りを実施している。	A	・「先生は、わたしの良いところを認めてくれている」と思う児童90%、「私は将来の夢や目標をもって生活している」児童84%、「自分の目標が達成できるように工夫して取り組んでいる」児童86%であった。また、「家の人や地域の人たちとする学習は自分のためになっている」と答える児童が94%であった。地域人材を生かし取組が志を高めることにつながっている。	A	・色んなことにチャレンジに目標を持って進んでいる姿に感動することが度々ある。これからもお友達と仲良く学校生活も楽しんでほしい。	学び部主任
●健康・体つくり	次の中から1つ以上を選択 ❶「運動習慣の改善や定着化」	❶授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒65%以上	・毎日の外遊びを奨励するとともに、様々な外遊びを紹介することで、児童の興味、関心を高める。	C	・なかよし活動を実施し、外遊びや集団遊びに親しませている。今後は、体育等で運動の意義や楽しさを体験させて、運動習慣を形成させていく。 ・熱中症対策のため、日中の外遊びを推奨できない日が続いた。今後も、状況に応じた声掛けをしていく。	B	・「外遊び・スポーツなどで一日30分以上の運動をしている」76%であった。運動に興味を持たせる活動を行った職員は95%であったが、運日の熱中症警報や学級閉鎖等が重なったことも80%を超えなかった理由と考えられる。	B	・各児童の体調、気候（気温等）、感染症の流行状況等をみながら、運動に興味を持たせる活動を推進していく必要がある。	健やか部主任
	○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化	○「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいる児童85%以上	・学び部や家庭と連携し、年2回（6月と11月）「生活習慣チェック」を行う。	B	・6月の生活習慣チェックを実施した。テレビ等の時間を決めて、「早寝」から実行するよう指導していく。	A	・「早寝、早起き、朝ごはんに取り組んでいる」児童が82%、保護者89%であった。	B	・今後も、「生活習慣チェック」を継続する必要がある。	暮らし部主任/健やか部主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・勤務時間を毎日入力することにより、時間外勤務時間を意識する。 ・定時退勤日の設定。 ・学年定時退勤日の設定	B	・ひと月に45時間以上時間外勤務をした職員が、年度初めの4月61%、5月33%、6月37%だった。徐々に時間外勤務の上限への意識が高まってきている。	A	・ひと月に45時間以上時間外勤務をした職員の割合が7月10%、8月0%、9月13%、10月19%、11月11%、12月4%、1月4%となった。徐々に減少している。また、全職員の平均時間外勤務時間は、昨年度の比較して約7時間短くなった。	B	・先生方が元気ならば、子どもたちも元気になる。先生方の働き方改革を推進していきたい。	（主）教頭 （副）教務主任
	○会議・業務等の在り方を見直すことにより、児童と関わる時間を確保する。	○「担任は、子どもにしっかりとかかわっている。」と回答する児童・保護者90%以上	・会議の内容、進行の仕方等を改善して回数や時間の削減を図る。 ・各所の整理、整とんを進め、業務の効率化を図る。	B	・校時表を見直し、児童の下校時刻をこれまでより45分間早めたことで、教材研究の時間を確保した。	A	・「先生は私（子ども）の良いところを認めてくれていると思う」児童90%、保護者95%、「担任は、あなたにしっかりと関わっている」と思う児童94%、保護者96%であった。「依然と比べて子どもにしっかりと関わることができた」職員97%であった。	B	・日々の生活の中での行動や言動で成長を感じる事がよくある。素直にまっすぐ育ってくれているのは学校の先生方がしっかり関わって下さっているからだと思う。	（主）教頭 （副）主幹教諭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○教育のユニバーサルデザイン	○学習しやすい環境づくり	○「学習に集中しやすい環境・学級である」と回答する児童・保護者85%以上	・特別支援教育の視点を取り入れた「学習環境のユニバーサルデザイン」「授業のユニバーサルデザイン」「人的環境のユニバーサルデザイン」を図る。 ・学校運営協議会やPTAと連携して研修会を行う。	B	・校内研修、連絡会でUD教育についての研修と共通理解を継続している。 ・適宜取り組みを振り返り、改善すべきものは改善している。 ・学校運営協議会とPTAと連携した研修会を後期に実施予定である。	A	・「学級は、わかりやすい授業や集中しやすい教室である」児童88%、保護者95%であった。全職員共通理解を図って取り組んだ成果が表れた。	A	・とても分かりやすく、楽しい授業で、クラスに活気があった。	（主）UD教育主任 （副）主幹教諭
○人権・同和教育の推進	○教員の専門性と意識の向上	○人権・同和教育に関する専門性が向上した教員80%以上	・人権・同和教育に関する研修会の実施 ・授業研究会の実施	B	・校内研究おいて、人権・同和教育に関する研修と授業研究を実施し、教員の意識向上を図った。後期は授業研究会をさらに充実させていく。	A	・「人権・同和教育に関する専門性が向上した」職員92%であった。実践交流会においても、参加者から取組について高い評価を得た。	A	・自分の好きな人、嫌いな人、苦手な人、様々な人と触れ合い、自分ないに人との距離感を学び、コミニュケーションを図っていければと考えている。	（主）研究主任 （副）人権・同和教育担当

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・児童一人一人の良さを表彰する活動、担任と児童一人一人が話し合う「あのねタイム」、下校時刻を早めて放課後の時間を確保する等の取組を行うことで、教員が授業や休み自時間に子どもに関わる時間が確保された。そのことで、児童の学習意欲や友人との関係が良好になっていると思われる。 ・次年度は、教員一人一人の授業力等を向上させる取り組みをさらに充実させることで、児童の自主的な学習態度を高めていきたい。